



令和8年1月29日

独立行政法人日本学術振興会

第16回（令和7（2025）年度）日本学術振興会 育志賞^{いくし}の受賞者決定 （19名の優秀な大学院博士後期課程学生に授賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、本会に設置されている育志賞選考委員会（委員長 清水 孝雄：微生物化学研究所長、国立健康危機管理研究機構シニアフェロー）の選考に基づき、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生 19 名を日本学術振興会育志賞受賞者として決定しましたので、お知らせいたします。

<育志賞ウェブサイト： <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/>>

1 日本学術振興会 育志賞について

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設し、今回が第16回目となります。

本年は、大学の長及び学術団体（学会）の長から187名の大学院博士課程学生の推薦があり、大学長経験者等の有識者にて構成される選考委員会で厳正な審査が行われ、受賞者19名を決定しました。

2 授賞式等について

令和8年3月3日（火）に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において、授賞式が行われる予定です。

（お問い合わせ）

独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部 人材育成企画課

「日本学術振興会 育志賞」担当

電 話：03-3263-0912（直通）／E-mail：ikushi-prize@jsps.go.jp

（注）メールを送る際は「*」を「@」に置き換えてください。

第16回（令和7（2025）年度）日本学術振興会 育志賞 受賞者一覧

※五十音順、所属機関は令和7(2025)年5月1日現在

受賞者氏名	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
アリタ ヒロノブ 有田 浩暢	東京理科大学 (大学院薬学研究科) (薬科学専攻)	東京理科大学	μ オピオイド受容体拮抗薬の創製と違法薬物撲滅への貢献
イイカワ ハルカ 飯川 遥	一橋大学 (大学院社会学研究科) (総合社会科学専攻)	一橋大学	概念の分析哲学：表象および概念の本性の解明と分析哲学の方法論的再検討
イトウ ススム 伊藤 将	東北大学 (大学院理学研究科) (物理学専攻)	日本物理学会 東北大学	魚の群れ形成と集団運動の統計物理学
ウエダ ユイカ 上田 唯花	大阪大学 (大学院基礎工学研究科) (機能創成専攻)	日本機械学会 大阪大学	細胞の柔軟な環境適応性の根源である力学的ホメオスタシスの解明
オオアシ アヤカ 大蘆 彩夏	岡山大学 (大学院環境生命自然科学研究科) (環境生命自然科学専攻)	岡山大学	アホートルを用いた皮膚コラーゲンの新規形成メカニズムの解明
オオカワ タケヒコ 大川 武彦	東京大学 (大学院情報理工学系研究科) (電子情報学専攻)	東京大学	インタラクションにおける手の視覚的理解
オオシオ ヒジリ 大塩 聖	学習院大学 (大学院自然科学研究科) (生命科学専攻)	学習院大学	ミトコンドリアへの鉄供給メカニズムの解明
カナヤ ヒロユキ 金谷 啓之	東京大学 (大学院医学系研究科) (機能生物学専攻)	日本動物学会 日本薬理学会	睡眠と麻酔の分子機序の解明
キムラ カイト 木村 海渡	名古屋大学 (大学院多元数理科学研究科) (多元数理科学専攻)	名古屋大学	Ext 加群の解析を軸としたホモロジカル可換環論
コウ チイエン 黄 子彦	東京大学 (大学院医学系研究科) (分子細胞生物学専攻)	日本神経科学学会 東京大学	他者の恐怖伝染に伴う自己と他者の脳内表象メカニズムの解明

受賞者氏名 (性別)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
ストウ タク 須藤 拓	横浜国立大学 (大学院理工学府) (化学・生命系理工学専攻)	横浜国立大学	過冷却溶融 Li 塩の創出:イオン ダイナミクスと次世代蓄電池への 応用
タカハシ ハルカ 高橋 治花	日本体育大学 (大学院保健医療学研究科) (救急災害医療学専攻)	日本体育大学	市民の救命行動に基づく病院前 医療体制の実証的評価
ナカガワ ユウコ 中川 優子	東京藝術大学 (大学院音楽研究科) (音楽専攻)	東洋音楽学会 東京藝術大学	近世日本の儒学者による雅楽研 究とその音楽思想
ノザワ コウキ 野沢 公暉	筑波大学 (大学院理工情報生命学術 院 数理物質科学研究群) (応用理工学学位プログラ ム)	応用物理学会 筑波大学	多結晶 IV 族半導体薄膜の物性 制御とデバイス応用
ハセガワ ユウハ 長谷川 悠波	長崎大学 (大学院水産・環境科学総 合研究科) (環境海洋資源学専攻)	長崎大学	ニホンウナギ稚魚における捕食 魚の鰓の隙間からの脱出行動に 関する研究
ファン カンジュ 黄 冠儒	京都大学 (大学院人間・環境学研究 科) (人間・環境学専攻)	日本心理学会	文化と対人行動:社会的認知の 観点からの考察
マスオ ユウキ 増尾 優輝	京都大学 (大学院医学研究科) (医学専攻)	京都大学	ヒト自己免疫疾患における組織 炎症を維持する T 細胞反応機構 の解明
マツバラ キホ 松原 希宝	群馬大学 (大学院理工学府) (理工学専攻)	群馬大学	計算化学の援用による有機材料 合成
モンデン コウタ 門田 宏太	島根大学 (大学院自然科学研究科) (創成理工学専攻)	島根大学	接ぎ木の活用による器官特異的 な遺伝子機能の解明と応用

「日本学術振興会 育志賞」の概要

－優秀な大学院博士後期課程学生の顕彰・支援－

1. 事業の趣旨

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位 20 年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成 21 年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成 22 年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設しました。

2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とする。

- ① 我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって、令和 7 (2025) 年 4 月 1 日において 34 歳未満の者で、令和 7 (2025) 年 5 月 1 日において次の 1) から 4) のいずれかに該当する者（5 月 1 日に休学中の者の扱いについては、※参照）

- 1) 区分制の博士後期課程に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程 3 年次以上の年次に在学する者
- 3) 後期 3 年のみの博士課程に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の 4 年制博士課程に在学する者

※ 5 月 1 日に休学中の者については、11 月 1 日までに復学を予定している場合には、推薦できます。この場合は、令和 7 (2025) 年 11 月 1 日において、1) から 4) のいずれかに該当する必要があります。

- ② 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学の長（大学長推薦）

推薦数：人社系、理工系、生物系各 2 名、その他に分野を問わず 2 名の計 8 名まで

※ただし各カテゴリの推薦が男性のみの場合は各 1 名まで

- 2) 我が国の学術団体（日本学術会議協力学術研究団体に限る）の長（学会長推薦）

推薦数：2 名まで

※ただし推薦が男性のみの場合は 1 名まで

5. 選考方法

推薦のあった候補者について、書類選考により面接選考対象者を決定し、面接選考を経て、日本学術振興会に設置する選考委員会において、受賞者を決定します。

6. 選考基準

学業成績が優秀で、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいること。選考に当たっては、本賞の趣旨に鑑み、次の①から③を重視します。

- ① 我が国の学術研究の将来を担う研究者となりうる卓越した能力を有しており、将来学界等への貢献が期待されること
- ② 将来、更なる研究の発展が見込まれ、卓越した研究者に成長していく可能性を有していること
- ③ 経済的に困難な状況や、研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして、主体的に研究を進めていること

※上記に該当する者の例

- 発想・着想、課題設定などにおいて、創造性・独創性が高い研究に主体的に取り組んでいる者
- 当該学問領域や学際領域における重要な基盤となる研究に主体的に取り組んでいる者
- 研究活動に関連する、ユニークな活動に主体的に取り組んでいる者
- 短期的には論文等の成果が出にくい研究に対して、忍耐強く取り組んでいる者

7. 授賞等

授賞数は16名程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します。

8. 受賞後の取扱い

受賞者は、希望により、所定の申請手続きを経た場合、受賞の翌年度から「日本学術振興会特別研究員（PD）」等に採用されます。

9. 第16回（令和7（2025）年度）日本学術振興会 育志賞 推薦状況

大学長推薦	学会長推薦	計
152名（134名）	58名（56名）	187名（177名）

（ ）内は、前年度の人数

※合計数は、重複推薦を1名として計上

10. 第16回（令和7（2025）年度）日本学術振興会 育志賞 日程

推薦依頼	令和7（2025）年3月21日
推薦書受付	令和7（2025）年5月22日～27日
予備選考（書面選考）	令和7（2025）年6月～10月
予備選考（面接選考）	令和7（2025）年11月
選考委員会	令和8（2026）年1月8日
授賞式	令和8（2026）年3月3日

11. 賞牌

このメダルの外形は、西洋では「学術」「発明」「知恵」など、日本では「天眼力」「神通力」にたけた鳥と言われているフクロウの卵を表しています。また中央に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配し、連続模様で「広がり」を表現し、さらなる成長を期待するという趣旨でデザインしました。

（デザイン：東京芸術大学名誉教授 飯野 一郎）



12. 日本学術振興会 育志賞 選考委員会委員名簿

令和8年1月現在（敬称略）

氏名	所属機関・職
委員長 清水 孝雄	微生物化学研究所 所長 国立健康危機管理研究機構 シニアフェロー
加藤 美砂子	お茶の水女子大学 理事・副学長
河田 悌一	日本私立学校振興・共済事業団 元理事長
田中 明彦	国際協力機構 理事長
西澤 直子	石川県立大学 参与／前学長
花輪 公雄	東北大学 名誉教授 海洋研究開発機構 特任上席研究員
日比谷 潤子	国際基督教大学 名誉教授
藤巻 朗	名古屋大学未来社会創造機構 特任教授 産業技術総合研究所量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター 審議役
森 初果	東京大学物性研究所 教授